

## 2021 年度（総合型選抜）AO 選抜入学試験 文学部

### 国際コミュニケーション学域

「国際方式（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・  
中国語・朝鮮語）」

#### 【選考講評】

##### 1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際コミュニケーション学域	18	10	6

##### 2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

###### (1) 評価ポイント

本学域の選考には、総じて英語に関して熱心に取り組んできたことがうかがえる ES と志望理由書が多く提出されました。また、短期あるいは長期で英語圏に留学したり居住したりした経験を持つ受験生も少なくありませんでした。従って、英語に関する成績や取り組みだけでは甲乙つけがたいものがありました。そこで、留学や学校を通じた海外との交流などの国際的な経験については、単に現地の人々と「言葉が通じなくて困った」といった感想にとどまらず、その国や地域の言葉や文化について、どれほど深く学んだか、またそこで何を感じ、考えたのか、といったところまで書かれていたものを高く評価しました。

自らのこれまでの経験や学びを深いレベルで考察できていることに加え、大学での学びについて明確に述べられているかどうか、という点が第一次選考の合否基準となりました。大学では英語の運用能力をつけることが学びの目標になるわけではなく、英語で何を学ぶか、という目的が明確になっていることが重要です。英語以外の教科の学習や、課外活動への取り組みなどに示される、現在の自分の関心事と大学での学びをしっかりと結びつけた記述がなされており、かつ独自性があり、深い考察を提示できていた課題レポートや志望理由書が評価されました。このようにこれまで自分が関心を持って取り組んできた経験と、大学での学びをしっかりと結びつけるためには、入学試験要項や本学域の HP、パンフレットにしっかりと目を通し、本学域で何が学べるのかをよく理解することが不可欠です。自らの関心が、本学域でこそ達成しうるものであるという点について、説得力を持って書いているかどうか合否の判断のポイントとなりました。

###### (2) 解答状況

本学域が提供する学びについての理解が弱いもの、及び、自らの体験の独自性・個性を表現できていない文章は、訴える力に欠け、残念ながら第一次選考通過となりませんでした。英語の学習に励み、国際的な経験をしたことのある高校生は数多くいます。その中でも特に深くその経験を内面化でき、これからの学域の学びに貢献できる学生こそをこの入試では求めています。

提出された ES 及び志望理由書は、こうした観点を満たしているもの、残念ながらそう

ではないものにはっきりと分かれていたと思います。自分が高校生活で学んだこと、体験したことがどのように独自性をもち、かつ価値のあるものなのか、自らの言葉でしっかりと記述しつつ、本学域のカリキュラムをどのようにさらなる学びにつなげ、さらには卒業後の自分の生き方につなげていきたいのかについて、具体的に記述した文章が強く望まれます。

### 3. 第二次選考

#### (1) 評価ポイント

面接では、まず当学域を志望した理由を尋ねました。その内容を少し掘り下げて質問した後に、大学入学後の学びと将来の展望について話してもらいました。またそれらと関連して、高校での学びや課外活動、留学体験や、そのような活動・体験を通して感じ、考え、学んだことについて質問しました。

高校時代の経験や留学経験について、自分でよく考え、分析し、内面化していることが大事です。そうした経験に基づいて考察した内容について、自分の言葉で説明できている受験生が高い評価を得ました。また、英語の運用能力を高めるための学習だけでなく、大学で何を学び研究したいのか、という学問的な興味が欠かせません。この学問的な興味は、将来のキャリア設計に直接関係する場合も、そうでない場合もあってよいのですが、この学域でこそ深められる学問的に探究したいテーマは何なのか、自分の言葉で語ることが不可欠です。

#### (2) 解答状況

受験生は、おおむね事前に面接準備をしっかりと行ってきた様子でした。しかしその一方で、あらかじめ用意してきた答えを披露することに集中するあまり、試験官からの質問に的確に答えられない受験生もいたのは残念でした。一番大切なことは、大学で何を学びたいのかということ、自分の言葉で具体的に話すことです。自分の関心や今後のビジョンに即した具体的な学びについて、学域の特徴をよく調べた上で、自分の言葉を使ってしっかりと説明できた受験生が高い評価を得ました。

#### (3) 試験（プレゼンテーション・面接）内容

高校までの学びや課外活動、留学経験を通して考察したことや達成したこと、それらをもとに、どう大学での学びを将来の展望につなげるか、といったことについて面接で問いました。

#### (4) 出題（プレゼンテーション・面接）の意図

学問に対する積極性や真摯さ、目的の明確さや大学生活に対する具体的なビジョン、また思考力や分析力があるかどうか、さらにそれを言語化して自分の言葉で表現できるかどうかについて読み取ろうとしました。

#### (5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

英語力の向上のみならず、高校生活における日々の学びや周囲の人々との交流など、日常生活の積み重ねが、この入試では重要になります。人とは何か、人が集まって形成するコミュニティとは何か、さらに人や社会をつなぐ、あるいは妨げるコミュニケーション

ョンとは何か、といった本質的な問いに向き合う姿勢を、日ごろから心がけてほしいと思います。加えて、個々人の興味も存分にのぼして高校生活を送ってください。それぞれの受験生の特別な良さを、試験官は見たいと思っています。

以上